

はじめに

この手引は、レントの46日の間、ヨハネの福音書12章から19章までを読みながら、イエスのご受難を辿り、その奥義に与るために書かれました。毎日指定された箇所を読み、そこに描かれている主イエスの姿を想い、その声を聴きとつてください。この手引を読むだけで終わることがないように、必ず聖書を開き、関連した箇所も開いてください。そして、先を急ぐことがないように、その日、その日の箇所を十分に黙想するようにしましょう。

この手引には、イースターの黙想も加えてあります。これら47篇の黙想が、皆さんのレントの期間を豊かなものにする助けになるなら、執筆者、編者ともに、それによき喜びはありません。

執筆者は次のとおりで、執筆者のイニシャルが各ページの末尾に記されています。

新垣 太	(FS)	ダラス・ジャパニーズ・ミツシヨン・チャーチ牧師
高岡 宏光	(HT)	オーランド日本語バプテスト教会牧師
中島由美子	(YN)	ウエストロサンゼルス・ホーリネス教会牧師夫人
中尾フィリップ	(PN)	ダラス永楽長老教会日本語ミニストリー協力牧師
中尾照代	(TN)	同夫人

なお、聖句は新改訳2017より引用しています。引用の後の括弧内の数字はその箇所の節を表します。

その律法によれば、この人は死に当たります。自分を神の子としたのですから。(7)

イエスは しょうしんしょうめい 正真 正銘 の神の御子であられるので、「わたしは神の子だ」と言われたのです。しかし、ユダヤ人たちは、「あれは大工のヨセフの子ではないか」と、イエスを人間的な面で見かけようとしませんでした。イエスの数々の権威ある真理の言葉を聞こうとせず、力あるみ業を見ても、悟ろうとしませんでした。事実を事実として見ないで、律法を観念的に捕らえて、自分たちの考えに固執こしつしていた人々によつて、事もあろうに、神ご自身であられる方が、「冒瀆罪ぼうとく」で罰せられたのです。

しかも、彼らは神の御子をさんざん愚弄ぐろうしたあげく、極悪人への刑罰だった十字架を求めました。裁き主なる神が、裁かれる側に立つておられ

ます。他に類を見ない本末転倒の有様がここに見られます。

数多くの犯罪人の裁きを手がけてきた、ローマの総督ピラトが「この人には罪がない」と断言したイエスを「十字架につけよ、十字架につけよ」と叫んだ人々、その神への反逆の叫びを、神のみ子は黙って忍ばれ、人として耐えられ、罪無き犯罪者となつて忍び通されました。ああ、このようなことを、誰が思い見たでしょうか。

祈り

いばら 刺の冠を頭に刺され 血を流し

鞭打たれ つばをかけられ

あざけられた神の御子 イエスさま

あゝわが罪のために わが救いのために

TN

上から与えられていなければ、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。(11)

ユダヤの指導者はイエスに死を宣告しましたが、死刑の執行は許されていなかったため(ヨハネ18・31)、ローマ総督にイエスの死刑、しかも最もむごい、十字架刑を要求しました。総督ピラトは事を穩便おんびんに運び、イエスを釈放しようとする努力なのですが、「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルカエサルの友ではありません。自分を王とする者はみな、カエサルに背いています」(12)との言葉に屈し、ついに主イエスを十字架に引き渡しました。総督ピラトはイエスに向かって「私にはあなたを釈放する権威があり、十字架につける権威もある」(10)と仰いました。が、実際は、自分より上にあるローマ皇帝の権威を恐れ、罪のないお方を罪に定めたのです。

この世の権威には、すべて上下関係がありま

す。総督の上には皇帝がいて、ローマ帝国では皇帝は絶対的な権威を持っていました。しかし、皇帝の権威すら、「上から」、つまり、王の王、主の主である神から来ているのです。ピラトは、自分の権威について語りましたが、結局のところピラトはその権威を行使できませんでした。彼の上にある権威に従わざるを得ませんでした。その権威とは、ピラトが恐れたローマ皇帝の権威ではなく、さらにその上にある神の権威でした。ピラトは審判者の席に座っていましたが、この時、被告として彼の前に立っていた主イエスによって裁かれていたのです。

祈り 主よ、自分の力やこの世の権威に頼るのではなく、あなたの力を誇り、その権威のもとに生きる者としてください。

PN

彼らはその場所でイエスを十字架につけた。また、イエスを真ん中にして、こちら側とあちら側に、ほかの二人の者を一緒に十字架につけた。(18)

ゴルゴタの丘に三本の十字架が立てられました。イエスが真ん中に、二人の犯罪人がその右と左に。ルカの福音書には、このことが詳しく記されています(ルカ 23・22〜43参照)。

十字架上の犯罪人の一人は、イエスを罵り続けましたが、他の一人は、それをたしなめ、いまわのきわに自分の罪を悔い改めて、イエスを神と信じ、仰ぎ見えています。彼は「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください」と言いました。自分の隣におられる、十字架上のこの方こそは、神のみ位に座すべきお方、と彼は信じたのです。イエスは、「あなたは今

日、わたしとともにパラダイスにいます」と答えて、この犯罪人に永遠の救いを保証されました。

イエスは、捕らえられる前まで、ユダヤとその周辺の地方を巡り歩き、御国を宣べ伝え、人々を癒し、救い、助けられたのですが、何よりも人々に信仰を求められました。からし種一粒にも満たないような信仰でも、主はそれを受け止めて、救いと恵みのおことばをかけてくださいました。

イエスのお心は、悔い改める者、救いを求める者に、いつも向けられていて、罪人の只中において救いを与えてくださるのです。

祈り 神のみ位に座すべきお方が、十字架の刑罰を受け、罪ある者を赦し、いつも傍近くいてくださることに、感謝と共に畏怖を覚えます。

TN

それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。(27)

イエスは、母マリアの行く末をを案じて、弟子のヨハネに母を託されました。息も絶え絶えのお苦しみの中から、愛する者の身を案じて、具体的な配慮をなさったイエス。そうして悲しみに沈む母と若い愛弟子まなでしヨハネを慰めてくださいました。イエスは、ご自身につける者、ご自分に頼る人々を常に心に留めて導きを与え、守り助けてくださるお方です。

このような絶望的な状況の中でイエスは、母マリアがこの先、生活の心配をしなくても済むように、寂しい思いをしなくて済むようにしてくださいました。ヨハネは、きっとイエスの母マリアを、その生涯の終わりまで、大切に面倒を見たに違いないと思います。そして互いに励まされたと

思います。

八方塞むさきがりの苦境の中で、不安におののいていような時、神の思わぬ助けが、具体的に与えられて、守られ、支えられて、生きて来れた、今日まで歩んで来れた、という体験を、多くの信仰者は持っています。神により頼む者に対する、神のご配慮は万全です。この御手に導かれるとき、嵐の多いこの世においても、力強く前進できるので

す。

祈り
主の愛の手に その恵みのみ手に

絶えず守られ 今日まできた我が身

世の嵐が強く吹きつけて 倒れそうな時も

主の力ある手はすぐに伸ばされて

この身を支えてくれました

その愛に感謝します

TN

わたしは渴く。（28）

「わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。」（ヨハネ4・14）

「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」（ヨハネ7・37）こう言われた主イエスが、十字架の上で「わたしは渴く」と叫んでおられる。なんとという矛盾、逆説でしょう。聖書にはこうした「矛盾・逆説」がいたるところにあります。主イエスのご生涯はその最たるものです。神が人となられる。栄光に満ちたお方が、家畜小屋に生まれ、貧しく育たれる。「ユダヤの王」として生まれたのに、同国人から捨てられる。罪のないお方が罪を着せられ、極刑を受ける。神の御子が父から見捨てられる。「いのちの主」であるお方が死なれる。こんな「矛盾・逆説」がどこにあるでしょうか。

しかし、この「矛盾・逆説」がなければ、罪の

贖いは成し遂げられなかったのです。なぜかといえば、罪もまた大いなる「矛盾・逆説」だからです。神に造られた人間が造り主を忘れる。神のうちに造られた人間が、それを捨てて動物以下になる。つきない命の水のみなもとである神を捨てて、すぐに枯れてしまう溜池たらいけを掘る。神に愛されているのに神を憎む。罪は神と人との正しい関係をひっくり返すものです。ですから、この罪の状態はもう一度ひっくり返されなければなりません。その「どんでん返し」が主イエスの十字架の叫びの中にあるのです。そして、それは、主イエスの叫びに耳を傾け、その真意を悟る者の中に「回心」という形で現れます。十字架の主に、私を生かす「いのちの水」があると信じる信仰に導かれるのです。

祈り 主よ、あなたこそ私を潤うるわすお方、あなた以外の誰のところに行けましようか。

PN

しかし兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出て来た。(34)

主のわき腹から流れ出た「血と水」について書いているのはヨハネだけです。ヨハネはその手紙でも「この方は、水と血によつて来られた方、イエス・キリストです。水によるだけではなく、水と血によつて来られました。御霊はこのことを証しする方です。御霊は真理だからです。三つのものが証しをします。御霊と水と血です。御霊と水と血です。この三つは一致しています」(第一ヨハネ5:6~8)と書いています。「水」はバプテスマ、「血」は十字架、そして「御霊」はペンテコステを指します。主イエスはバプテスマによつて公生涯に入り、ご自分がメシアであることを証しされました。十字架は主の贖いの証しであり、聖霊の降臨は主こそ神の右に座す至高者しこうしゃであることこの証明でした(使徒2:33)。

主を証しするバプテスマ、十字架、そして聖霊の降臨は同時に、私たちに与えられた救いを証ししてくれます。それは、主を信じてバプテスマを受けた者が神の子どもとされたこと、主の晩餐にあずかる者が主によつて生かされていること、そして、私たちが聖霊の宮であることを証しし、そのことの確証を与えてくれるのです。

神の小羊である主の血によらないでは、私たちの罪は贖われることはありません。私たちの霊の渇きもまた、主のわき腹から流れ出るものによつてしか満たされないので。私たちが帰るべきところは主の十字架以外にはないのです。

祈り 主よ、あなたは私のためにすべてを注ぎ出してくださいました。今、私は、あなたの渇きによつて満たされることを悟りました。

PN

彼らはそこにイエスを納めた。（42）

使徒信条に「主は死にて葬られ」という箇条があります。命の主であられる方、全宇宙の支配者なる万軍の主が、人間が用意した墓に葬られた…？ 最も墓にふさわしくない方が、死人として墓に横たわっている…！ こんなあるはずのないことがほんとうにあったのです。

人間としてマリアから生まれ、その棲家^{すみか}で成長し、生活の労苦を舐^なめ、疲れ、人間としての喜怒哀楽を味わい、人間の受ける刑罰を受けて死に、墓に葬られたイエス。こんな事がなぜ起こったのでしょうか。聖書はそのわけを多くの箇所ですべて語りますが、第一コリント1・18～25には、ご自分に死を招いた神の愚かさは、人よりも賢く、人と同じ姿で死なれた神の弱さは、人よりも強いと記されています。このすさまじい逆説の真理を、聖

書は福音と呼んでいます。すべての人を救う神の愛だと伝えていきます。神の意志だと伝えていきます。罪人を救うために、その御ひとり子に死を与えた神の誰も理解できないような特別な愛！ とてつもない神のみこころ！

墓は死人が眠る静かな場所ですが、神のみ子イエスが伏したこの墓からは、神の愛のメッセージが墓石を飛び越えて私たちの心に迫ってきます。

こんなにまでして、人を救う事をなされた神の愛のお心が胸に響いてきます。

祈り いと高き神なるお方が、人となられ、墓にまで降られた。愛の神はそこまでして人を救われた。神の愛は、何と驚くべきものでしょうか。 TN

さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。（1）

『ジェファアソン・バイブル』は、第3代大統領トマス・ジェファアソンが四つの福音書一つにまとめ、イエスの教えを要約しようとしたもので、正式な書名は『ナザレのイエスの生涯と教え』です。最後の節（17章64節）は、「そして、墓入り口に大きな石を転がし、立ち去った」となっています。『ジェファアソン・バイブル』には、イエスの処女降誕、奇跡が省かれており、イエスの死で終わっています。復活も省かれています。

しかし、それでは「イエスの生涯と教え」は完結しません。イエスが、大きな石で塞がれた洞穴の中に入ったままであったなら、なぜ、世

界中の人々がイエスを神として崇め、その「偉大な生涯」を覚え、その「比類のない教え」に従おうとするのでしょうか。ユダヤの宗教界から葬り去られ、絶大なローマ権力によって処刑された人物と、その教えがなぜ、命がけで語り継がれてきたのでしょうか。それは、「イエスが、事実復活された」こと以外に説明することはできません。

イースターの朝、私たちは何を見ていますか。墓を塞ぐ大きな石でしょうか。それとも、厳重に封印されたその石が、いとも簡単に、墓の入り口に転がっている情景でしょうか。ペテロと一緒に墓に行った弟子（おそらくヨハネ）は、空っぽの墓を「見て、信じ」ました（8）。私たちも復活の事実を見て、信じる者でありたく思います。

祈り 主よ、今朝、私は復活の事実を「見て、信じ」ます。あなたは生きておられます。

PN

試し読みはここまでです。

お気に入りましたら、

注文してください。



Penguin Club

<https://penguinclub.net>